会員近況

高橋浩一郎

小生おいおい老境に入り，自由業の状態ですが，週1回早大教育学部で気象学の講義をしており，新聞天気図の解説，いろいろな審議会への出席，原稿書きをしております．

若い頃は物事を単純に考え勝ちでしたが，近頃はいろいろな結び付きの難しさがわかってきたような気がします．現在「自然と歴史」というような表題の原稿を書いております．大きな問題で，いろいろな見方ができますが，人間社会の将来を予測する含みで，自然と人間との関連の歴史的変化を，OR的に分析する方向で進めております．

従来，社会の将来を考えるとき，とかく経済が優先され勝ちで，それにも理由がありました．しかし，人間活動がいちじるしく巨大になってきた今日，自然条件が非常に大きい壁となってきております．経済成長についても反省し，新しい方針を考えるべき時代になってきているのではないでしょうか．

慶応義塾大学医学部病院
管理学教室　信川　益明

医療問題を研究しています．特に病院内外の問題を扱っています．病院内について考えてみますと，病院は診察室等の物的資源および医師などの人的資源が機能している部分システムから成り，医療技術等の進歩により病院の部分システム間の相互作用は，さらに複雑化していくと考えられ，病院システムを分析する際の方法が問題になります．ORはその1つの方法と言えるのではないでしょうか．

ORの病院システム分析における役割について，外来窓口業務を一例として実際に適用してみました．その結果，ORの手法を今後とも病院諸業務の分析に適用し，効率化に役立てていくことが重要であることを再確認できました．

このように病院諸業務の「効率化」に視点を当てましたが，効率化問題の背景には病院患者を含む医療資源，諸業務についての安全問題があります．本問題についても，ORの見地から，将来検討していきたいと考えております．

(株)西日本新聞社
製作開発本部部長　野村　武

新聞社で電算機のシステム開発を担当して，十数年間ORを活用させていただいてきた．進路適性検査，余暇情報提供，商店経営診断，電算機導入指導など，電算機を使い，高度な専門知識を活かしたシステムの開発を手がけ，実績を積み重ねている．OR的考え方や技法を活用するとともに，諸大学との産学協同を積極的に進めてきた賜物である．その経験から，ORは社会から孤立しては発展しない学問ではなかろうかと考えている．

昨春から新聞製作を電算化する大システムの担当に移った．過去にも漢字情報処理システムを数多く手がけてきたが，このシステムは「非数値処理」であり，これまでの電算機利用とは異質の分野といえる．そして，OR的なアプローチがきわめて有効である．ところがノウハウの交流はまったくなく，メーカーや企業は同じ難問に同じような苦労を重ねているのが実情である．80年代は漢字情報処理システムが電算システム界のメーンテーマとなることは間違いない．ORにとっても宝の山となるのではと大いに期待している．

広島大学工学部
計数管理工学教室　松井　正之

12年ほど(修士時代も含めて)，ほそぼそと生産管理におけるコンベヤ生産システムについて研究を行なってきました．そのなかで，おもに職務設計とコンベヤ生産ステーション(CSPS)を研究しました．大量生産における新しいIE問題であった前者については，情報理論の適用や行動科学的アプローチを行ないました．後者は待ち行列理論の適用による研究で，待ち行列的にも“先見型待ち行列制御モデル”の問題として興味があるものと思います．最近，その研究を中心にまとめていますが，最適作業方策には単調性があるものの複雑です．思わぬ収穫は，平均値に関する入出力関係の公式とリトルの公式の拡張です．この方面の研究は“コンベヤ理論”の分野として確立されつつあり，生産工程の機械化を含めたコンベヤ生産システム設計の基礎理論としてさらに発展していくことを期待しています．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．